

---

# 魔法少女リリカルなのは～転生されちゃったよ。剣士と騎士が～

カイクウ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは〜転生されちゃったよ。剣士と騎士が〜

### 【Nコード】

N3175Y

### 【作者名】

カイクウ

### 【あらすじ】

ある日零式の話をしていた少年達。すると、落とし穴に落ちて気絶しちゃった！！気がついたら赤ん坊からリスタートだとさ。ゲヘツミ。しかも転生されたさきは・・・魔法の世界だって！意味わかんね〜。これはとある少年たちの話である。脚注、この話は駄文です。天の声があります。二人ぐらいで書いてます。そこんとこ4649。そしてこれはもしあなたが、アルバス・ダンブルドアはセブルス・スネイプに殺害されることや、イッキこと南樹がコロ爺に貰った壊れたホイールがバグラムであることや、ヴォイジャー

が7年掛かりで地球に帰還することや、上条当麻に説教されて殴られた男は女の子とフラグを立てる「カミヤン病」に感染することや、御坂美琴は妹達を助けるべく自殺しようとして上条当麻に説教されて止められることや、古泉一樹は機関のリーダーであることや、涼宮遙は事故で三年間眠り続けその間に速瀬水月が鳴海孝之の彼女の座に納まることや、ドルアーガを倒さずにドルアーガの塔の60階に行くことZAPで1階に戻されてしまうことや、柏木四姉妹は鬼であることや、ダスマダーが皇帝の分身であることや、フィリップの正体は園咲琉兵衛の長男・来人であることや、アポロがアポロニアスの生まれ変わりで太陽の翼であることや、白鐘姉妹は秘密組織ワダツミ機関のイカルス計画に関わっていることや、カノン・ヒルベルトはミズシロ火澄に殺されることや、ローウィンはオーロラによって闇の世界シャドウムーアに変化することや、NESシリーズは本編ではそんなに活躍しないことや、クリア・ノートは「シン・クリア」の術が破られることに完全体へ近づいていくことや、勇者バトルはあらかじめ空導王アンブレアスⅡガエアによって仕組まれていたことや、ケビン・スペイシー（犯人）の証言は全てその場の思いつきであることや、アンサイクロペディアはウィキペディアのパロディであることを知らないのであれば、充分注意して、うわなにをするやめ」

第一話　転生だよ！！全員集合！！　（前書き）

あれだね。FFXだね

## 第一話　転生だよ！！全員集合！！

とある少年たちの会話の会話

「あー・・・だるい・・・」

「そうだなー・・・」

赤髪の少年と銀髪の少年がいかにもだるそうに話をしている。  
なんか歩幅も狭いしね。

「あー・・・そういやさ。こないだ零式買ったのよ」

「え！？いいな・・・どうだった？」

「いやあれマジ面白いぜ！！やばいから！！神ゲー神ゲー！！」

「僕、日本のゲームってあんまやらないんだよね・・・けど、零式は外国でも騒がれてるらしいけどね。僕の父さんが買った」

「ふ〜ん…………じゃあお前の父さんにやらしてもらえよ。零式」

「いや、父さん、すごい零式気に入っちゃってさ。やらない日は五百重金庫にボディ―ガード二人つけて保管してるんだよ」

「いや、もはや国宝なみの扱いだね。零式。てかお前の家、どんな家だよ」

「父さん、総理大臣だからね。」

「変わって」

「いろいろ大変だよ？僕の家」

「いろいろって？」

「24時間勉強勉強」

「じゃあ無理だ。俺勉強とアルコールは苦手だから。やったら幻覚見ちゃうもん」

「……………大変な体質だね」

「ああ……………だからしたくてもできないんだよ……………勉強」

「<sup>レ</sup>愁傷さま二ノ宮くん」

「誰が二ノ宮だ。誰が」

「そういえば最近お父さんがアニメのDVD買ってきたんだよ」

「何の？」

「なんだっけ？・・・魔法少女・・・リリカル・・・な

」

銀髪の少年がなのは、と言いかけた時だった。

急に景色が止まった。正確に言うと、少年達が止まったのだから！

「あれ？地面が無いような・・・」

そりゃそうだろ。だって地面がないんだもの  
簡単に言うと、アニメでよくある、落とし穴？

「否・・・これは・・・」

「空間がわれてるがな」

「m・・・」m

「ねえ、僕たちこれからどうなるの」

「多分・・・死ぬ？」

「m・・・」m

•  
•  
•

「やだあああああ……」

こうして少年たちの冒険はこうやって始まり、また多分少年たちの新しい人生が始まります

あ、そうだ。今回からナレーションを務めさせていただきます。

どうかよろしくお願いします

[illegible]



第二話　目が覚めたら体が縮んでいた！――

光太郎サイド

「う・・・・・・・・」

ようやく意識が覚醒。多分病院。取り敢えず体を起こす。

あれ？おかしいな？

力を入れてもう一回

・・・・・・・・あれ？おかしいな？

なんだか力がでないな……

ん？よく自分の体を見てみるとちっちゃくなってるじゃないか

体は子供！！頭脳は中2その名は名探偵「お察してください」ン

いや、くだらない事言ってる場合じゃない。

なんで体がちっちゃくなってるの？

なんでバブー（世界共通語、ウチの保険の先生が言ってたんだから間違いない！）しか言えないの？

なんで今泣いてんの？確かに泣きたいけども！

「それではどうぞ」

ん？誰が入ってきたみたいだな

あ、こっちに向かってきた。なんだ？

あれ？俺の事持ち上げたぞ？

まさか・・・・・・・・この人たちが

「さて、この子は小竜さんの病室に連れてかないと」

なんだよ・・・・・・・・看護婦さんかよ・・・・・・・・はあ・・・・・・・・  
ん？この人の話によると俺の親は小竜っていうのか・・・・・・・・覚  
えておこう

「小竜さん、お子さんですよ」

え、マジで？この人たちが俺の親……

いや……前の世界の俺の親じゃん……

いや違うな……だってなんか若いもん……

「ほーら、パパですよー。ふはははははは」

うーん、父親……らしからぬ笑い方だな……

「ちょっと勇さん。怖がつてるでしょ！」

「ハツハツハ！冗談冗談！しかしあれだな……この子は猿に似てるな」

……だとコラ？糞ジジイ  
やんのかおい

「もう！なんて事言っのよー！」

そうだそうだ！なんて事言っんだ！ちょっと顔がいいからって酷くねーか！？

「冗談冗談！ところでこの子の名前は何にする？」

「そうね・・・・・・・・剣心なんてどう？」

「いや、るる剣はやめよう」

おい！お前はどこの比古清十郎だよ！！  
ってなにこのマイナーなツッコミ！！

「うゝん・・・・・・・・海賊王<sup>ルフィ</sup>は？」

「やめよう。勘違いされるから。看護婦さんに」

だからお前はどこのギャルだよ！！どこの！！

「えゝ・・・・・・・・じゃあゝ」

頼むよ俺の母親

頼むから漫画のキャラはやめろ！！

「じゃゝあゝ・・・・・・・・光太郎！！！」

「光太郎？」

「……真っ暗な人生をおくるより……明るい人生を送って欲しいから!! どうかね!？」

「……うん、いいな……本当は一護とかそういう名前が良かったけど!」

「好きなんだね。BLEACH」

・小竜……光太郎……前の世界とは違う名前だけ……

そういう……意味込めてたんだ

俺の名前って……



俺の親・・・・・・・・この世界の俺の親・・・・・・

前の世界では物心着く前に死んじゃったから

この世界の俺の親がいい人でよかったな

「ほゝら。お母さんですよゝ光太郎ゝ」

「あ、光太郎今笑った」

「ふふ、かわいいね」

「そうだな・・・・・・・・立派に育ってくれよ！光太郎！！」

母さんは俺の事を抱き上げてくれる

なんだか・・・・・・・・暖かいな

この世界に転生して・・・・・・・・よかったの・・・・・・・・かもな

「この人たちに、迷惑かけないようにしねーと・・・・・・・・」

「これからよろしくね！光ちゃん！」

「光太郎！よろしくな！！」

「こちらこそ・・・・・・・・よろしくな」

俺の母さん、父さん

いじねから・・・ゆづく

### 第三話　目が覚めたら以下同文

グラムサイド

「.....」

目が覚める。眩しい。おそらく病院だと思う。多分……

「あー……あーうー……」

おかしい。おかしいぞ。何故普通に言葉が出ないんだ？

よし、もっかいトライしよう。

「あー……あー……うー……！」

病室に僕の声が響く

僕は必死こいて叫ぶ……が、意味なし。

よくよく考えたら目線が低いような気が……

・ ・ ・  
 ってあれ？手がちっちゃいな．．．まるで赤ちゃんのような．

赤ちゃんのような？

つて今の僕の姿……

「ああゝ!! ああうゝうゝ!! (なんだこれええええ!! なんて赤ちゃんになつてるのおおおお!?)」

赤ちゃんになつてるせいか言語もあゝとうゝしか出ない……

……さらに僕の周りはガラスの牢獄……

見て!! この地獄の三連コンボ

波 拳 昇 拳 竜巻 風脚のようなコンボ(カ コンのみなさ  
ん本当にありがとう)

ごホン!! ……冗談はこれくらいにして……

今の状況を簡単にいえばさっきまで中学二年生の体だったのにな  
ぜか今は赤ちゃんの体になつてるっていうこの状況

つまり……人生リスタートという訳である

しかし……このガラスの牢獄……確か未熟児が入れ  
らるんだよね……

じゃあ僕、未熟児? オーマイガー

そんなことより僕にはもっと大事なことがあるじゃないか

・・・肝心の僕の親はどういう人なんだろう？という普通の日常だったら絶対遭遇しない質問

これである

いやまじでパンチパーマかけてるお父さんとか GANGRO なお母さんとか嫌だよ〜

普通の親でありますように・・・

「それではどうぞ〜」

わっ！来た！！



うわっ・・・・・・・・パンチパーマのお父さんとガングロメイクのお母さんだ・・・・・・・・

最悪だ~~~~~・・・・・・・・もうだめ・・・・・・・・死にたい・・・・・・・・

・

こっち来ないですよ・・・・・・・・

「うわっ！まじ超可愛くね！？」

「やばいんじゃない？こいつまじ可愛いですけど！海賊王<sup>ルフィ</sup>って名前にしようぜ！」

「いいね！それ」

そういつて二人のヤンキーは赤ちゃんを連れて病室から出ていく

よかった・・・・・・・・僕の親があんなのじゃなくて・・・・・・・・

そしてあの親の赤ちゃん・・・・・・・・同情するよ・・・・・・・・

あ、次来た

「うわゝウチの子かわいゝ萌えゝ萌えゝ」

「うわゝ男の子でよかった」

うわ、気色悪っ！何この親二人揃って愚の骨頂！！鬼畜の所業！！

こうして腐った人類が増えていくのか…………くわばらくわばら

あ、また来た

「…………あれ？僕は何をしにきたんだっけ？」

……………帰っちゃったよ……………

どうやら3歩歩くと記憶無くしてしまうらしい……かわいい  
そうに……

こうして変な親が三十人くらいこの病室に入ってきたがその後何  
時間も待ったが僕の親は来なかった

（おかしいなあ……子供が生まれたら様子を見に来るとかする  
んじゃないのかな……）

すると一人の帽子をかぶった老人が現れて、看護婦さんに話をし  
にきた

さらにこのおじいさんは僕のほうに向かって歩いてくるじゃない  
か！！

「この子が大統領のご子息様ですか……グラム・オーディン  
という名を大統領から預かっていますが……なんともかわい  
らしい……」

え・・・・・・・・大統領の・・・・・・・・息子・・・・・・・・？

嘘だあああああああ！！嘘だ嘘だ嘘だ嘘だ嘘だ嘘だ嘘だ嘘だ  
だ嘘だ・・・・・・・・嘘だ！！

「さて・・・・・・・・いきますよ。グラム様」

え、やめ！やめ！！連れてかないで！！つれてかないでよ！！お願いしますから離してえええええええ！！！！」

が僕の（心の）叫びはむなくこのお髭が素敵なご老人につれてかれ、無茶苦茶でかいリムジンに入れられ、無茶苦茶でかい豪邸に連れてかれたんだな・・・・・・・・と僕が感傷に浸るまで・・・・・・・・三時間後・・・・・・・・

第三話　目が覚めたら以下同文（後書き）

次はあれだ。あの・・・・・・・・光太郎が四歳くらいのときの話ですね

#### 第四話 いつかの出来事（前書き）

めちゃ短いです

#### 第四話 いつかの出来事

前回、目が覚めたら俺は赤ちゃんになっていた  
しかも俺は小竜さんちの光太郎君っていうのだからまあ、驚き

そして月日は・・・・・・・・二年たった・・・・・・・・



「こうちゃんが立って歩くようになってから四ヶ月……か」

32

「そしてオレらの事をパパ、ママっていうようになってから……  
・四ヶ月……か」

そうなんだよね……

俺がこの世界に転生されてから二年経つんだよね……

しかも不思議なことに月日が立つことにこの世界に来る前の記憶が消えていくんだよね．．．．

忘れるんじゃないくて、消える

だからもう二度と思い出せない．．．．

悲しいような．．．．うれしいような．．．．

そりゃ、楽しい事も忘れちゃうけど．．．．悲しい事もなくなるからな．．．．

ま、いつか。二度と元の世界に戻る事はできないだろうけど．．．．

けど．．．．忘れちゃうのかな．．．．あいつのことも．．．．

今は名前も．．．．あいつのとの思い出も消えちゃったけど．．．．あいつの顔とあいつと親友だったってことは覚えてる

死んだ人の記憶はなくなるって言うけど．．．．あいつの事を覚えてるってことは．．．．

あいつも……この世界のどこかで……

「ヘクチュン!!」

「おや？グラム様。風邪ですか？」

「あ。うゝゝ！（誰かが僕の噂してたんだ！爺）」

「うゝむ．．．．．そうか。ミルクが欲しいのですか！それでは今しばらくお待ちください」

「あゝあゝ！（爺．．．．．違っっては．．．．．）（」

「それにしても……昔の勇さんにそっくりね」

「そうか？俺は魅音の子供の頃に似てるけと思っけどな」

マジか！？母さんの小さい頃って俺に似てるんだ！！って俺が母さんに似てんのか…………

「これから…………光太郎はどういうことになるんだろうな」

「あなたみたいに身体能力がすごい子だったりして」

「ハハ。そうであつたとしても…………俺と同じ道は通って欲しくないな」

「言わないで。私たちは…………やめよう…………この話は」

「そうだな…………もうあつちの世界とは違つからな」

？？どういうことだ？

あつちの世界ってどういうことだよ…………あ…………！！無茶苦茶気になる！！

それに…………父さんがこの話を使用した時の母さんの顔…………

二人に……何があつたんだよ……

あ~~~~無茶苦茶気になる!!

「あ~~~~う~~~~!!」

「あら?どうしたの?こうちゃん」

「きつとミルクが欲しいんだろ。待ってる!父さんが今作ってやるからな!!」

「あら?あなたおむつを変えるのもできないのに、牛乳を哺乳瓶に入れるなんて出来るのかな?」

「当たり前だろ!これでも昔はキングの二つ名を持ってたんだからな!!」

「その名前。懐かしいね」

「ああ．．．．シドに龍華に燐．．．．あいつら何やってんだろうな」

「そんなことより！ミルク、ミルク！」

「ああ、そうだったな！待ってる！今持ってきてやるからな！！」

．．．．まあ、前の世界よりは．．．．今の世界のほうが楽しいな！！

さあて．．．．これからを楽しみましょうかね！



#### 第四話　いつかの出来事（後書き）

はあ・・・辛いですね・・・

この話は光太郎君が前の世界の記憶を持っていた、最後のときの話ですね

次回から光太郎君の記憶はなくなっちゃうからもう、中2の思考ではなく三才の思考ですので。あしからず

第五話　入園式前！

桜道　・　・　・

「父さん！早く早く！！」

「ハハッ。光太郎！ちょっと待ってくれよ」

「ほらほら。勇さん置いてかれちゃうわよ？」

「わかってるって！」

「もう父さん！！早く！！」

「分かった！分かった！」

今日は光太郎君が通う幼稚園の入園式です

三年前まで中学二年生だったのが今は三才の幼稚園児に

何故こんなことになったのか

理由は簡単。彼の親友と道端で話をしていたとき、急に出来た落とし穴に引っかけちゃって、それでこの世界にテレポ~~~~シヨン！！しちゃった~~~~というわけなんです。

それで今の光太郎君の転生されてきたときはまだ前の世界の記憶はあったけど今は~~~~~っていう状況

話を戻しましょうか。

それで今日は彼の入学式

桜の綺麗な四月き

彼の心は希望に満ち溢れていました

「父さん！！すごいね！！この花！！いっぱい落ちてくるよ！！！」

「光太郎。それは桜って言う花なんだよ。春になるとこつやって綺麗な花を咲かせるんだ」

「へっ………すげっ………」

今の光太郎君は昔の光太郎君と違って三才の男の子だからそういうことも忘れてしまったんですね

しかし、記憶を消去してしまっても、親友であり、一緒にこの世界に来た、「彼」の存在は忘れていませんでした

「ねえ、父さん！今日夢見たんだ！！！」

「ん？どんな夢だい？」

「俺がちゅうがくにねんせいになって、ともだちができる夢！！」

「へっ……そうなのか。幼稚園に入って友達ができるといねっ」

「うん！！友達百人作るんだ！！」

「へえっ……百人作れるといいな！！」

「作れといいんじゃない、作るんだよ！！」

「ハハッ！そいつはごめん！」

どこからどう見ても平和な家族の風景  
しかし、これから起きる少年の未来は  
しなく壮絶な戦いだった

果て

第五話　入園式前！～（後書き）

うん・・・・・・・・微妙だな・・・・・・・・

次回！！なのはちゃん！！と光太郎が出会っちゃう！？

お楽しみに！！



第六話　はじめての友達！高町なのは！ってこの子は・・・

入園式　・・・

☐

幼稚園に入学した皆さん!!こんにちは~~~~~」

こんにちは~~~~~!!

さっすがに子供たちは元気の塊である

元気が一番！！ありさんマークの引「お察してください」です！！

（うわゝ・・・・・・・・なんか緊張するな・・・・・・・・友達できるかな・・・・・・・・ん？）

光太郎君は隣の少女をみる

髪は茶色のツインテール、名札には「たかまち　なのは」と書いている

あれゝ？おかしいな？とお思いの読者様はお察してください

（この子なのはっていつのか・・・・・・・・友達になれるかな？）

「ん？どうしたの？」

「え？えつと・・・・・・・・あのさ。名前なんていつの？」

（いやだからなのはって書いてあんじゃん！！苗字は漢字でわからないけどなのはって書いてあんじゃん！！）

と一人ツツコミする光太郎

「高町なのはだよ！」

「なのはっていうんだ……俺、小竜光太郎！！よろしくな！  
なのは！」

「しょうりゆうこうたろうか……かつこいい名前だね！光  
太郎君だから『コウちゃん』だね！」

「こ、コウちゃん！？」

「え……だめ……かな？」

幼稚園児の汚れの無い上目遣いにやられた光太郎選手！！KOです

「う……うん！いいんじゃないの？けど、あんまり人前で言  
わないで欲しいんだけどな……」

「うん！分かった！！」

本当に分かったんだろうか……この少女は  
三年前の光太郎ならこう思ってることだろう

「それじゃよろしくね!!」コウちゃん!!」

「うん!よろしく!!なのは」

こうして「高町なのは」「小竜光太郎」二人の間に絆が生まれた

それはまだ幼いものだが、いつしか誰にも断ち切れないほどの強さになることだろう

その後、勝手にしゃべっていた光太郎となのは先生に見つかり、しばらくお説教をくらいましたとさ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3175y/>

---

魔法少女リリカルなのは～転生されちゃったよ。剣士と騎士が～

2011年11月24日18時47分発行